

第1回宇宙民生利用部会 議事録

1. 日 時：平成27年3月3日（火）15:00～16:40

2. 場 所：内閣府宇宙戦略室 大会議室

3. 出席者

（1）委員

中須賀部会長、柴崎委員、白坂委員、目崎委員、山川委員

（2）政府側

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、森宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官

4. 議事次第

（1）新たな宇宙基本計画の決定について（報告）

（2）平成26年度補正及び平成27年度の宇宙関係予算案について（報告）

（3）宇宙基本計画工程表の改訂の進め方について（報告）

（4）その他

5. 議 題

○中須賀部会長 お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。宇宙政策委員会「宇宙民生利用部会」第1回会合を開催したいと思います。

宇宙民生利用部会の部会長を拝命いたしました東京大学の中須賀でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、第1回目の部会の開催に当たりまして、小宮室長より御挨拶いただければと思います。

○小宮宇宙戦略室長 お忙しいところ、お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

御案内のように、今年の1月9日に新たな宇宙基本計画が策定されました。これまでの皆様方の御協力もありまして、非常に包括的かつ具体的な計画をつくることができました。この場をかりて御礼申し上げます。

宇宙基本計画を決定した後は、当然のことながら、それを着実に執行し、さらに発展をさせていく必要がありますので、今回、今までの部会編成を変えま

して、宇宙基本計画の３つの目的に沿った形で、宇宙安全保障部会、宇宙民生利用部会、宇宙産業・科学技術基盤部会の３つの部会を設置いたしました。ちなみに、宇宙産業・科学技術基盤部会の下には、宇宙科学・探査小委員会と宇宙法制小委員会を設置したところでございます。この宇宙民生利用部会においては、民生利用について議論していただきたいと考えております。宇宙の民生利用といっても、かなり多岐にわたる部分がございます。また、残念ながら我が国の宇宙の民生利用というのはなかなかうまく進んでいない面もございます。そういう意味で、宇宙基本計画をさらにどのように発展させることができるかという観点で、ぜひ積極的な御議論をいただければと期待をしております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

○中須賀部会長　ありがとうございました。

それでは、最初の議題に移りたいと思います。本日は第１回目の会議ですので、事務局より宇宙民生利用部会についての説明と、委員の御紹介をお願いしたいと思います。

＜事務局より資料１に基づいて説明及び委員紹介＞

○中須賀部会長　ありがとうございました。

それでは、議事に入ります前に、部会長代理を指名したいと思います。

部会長代理は、宇宙政策委員会令第５条第５項に基づき、部会長が指名することとなっております。白坂委員に部会長代理をお願いしたいと思います。

次に、本日の議事に入りたいと思います。最初の議題は「新たな宇宙基本計画の決定について」です。まずは事務局から御説明をお願いいたします。

＜事務局より資料２－１から２－４に基づいて説明＞

○中須賀部会長　どうもありがとうございました。

今の説明では、宇宙基本計画の中で我々の部会が所掌する民生利用に関する部分がどこにあるかということを御説明いただきましたけれども、この中でどういう議論をしていくのかということについては、後の工程表の説明のところでやるということによろしいですね。どういう議論になっているかということとはまた後で出てくると思いますが、まずは今の段階で、何か皆様のほうから御質問等ございますでしょうか。

いかがでしょうか。一言でいうと、非常に多くの項目が該当するということでございます。

例えば、宇宙状況把握は本部会の検討対象に入らないけれども、海洋状況把

握は本部会の検討対象に入ることですね。

○頼宮参事官　そうです。

○白坂委員　本当は資料５の説明の際に伺った方がいいのかもしれませんが、先ほど、この部会がメインで議論する工程表とサブとして議論する工程表の両方について説明を受けました。メインのほうはわかりやすいのですけれども、サブといいますか、関連はしていると言われた工程表の議論はどのようにしていくのでしょうか。

○頼宮参事官　資料５は、それぞれの工程表がどのように各部会に関係しているのかということを示した資料となっております。資料５を見ていただくと、左側に先ほど申し上げた１ページ目から５３ページ目までの工程表が列挙されています。

その隣に「政策体系」を書いておりますが、これは各部会だと考えていただければ幸いです。「安保」は宇宙安全保障部会、「民生」はこの宇宙民生利用部会、「基盤」は宇宙産業・科学技術基盤部会ということです。そのさらに右側に書いているのは各省の予算関連の施策です。したがって、例えば法律等はこの中には書かれていません。一番右端に書いているのは、予算施策を担当している省庁を示しています。

今、御質問があったのは、この中で政策体系の真ん中に書いてある◎と○の部分で、この違いは一体何かということかと思えます。資料５の一番下に注２として記載しておりますが、◎は主として該当する政策体系であって、その政策体系を担当する部会において、意見等を取りまとめるもの、○はその他関係する政策体系であって、当該政策体系を担当する部会においては補足的意見等を取りまとめるものということです。

例えば資料５の４８番に「産学官の傘下参加による国際協力の推進」というのがありまして、安保及び民生は○で、基盤は◎となっております。宇宙安全保障部会や宇宙民生利用部会の観点から、こういった視点にも注意すべきだ、こういうことをやるべきだ、というみたいなことがもしおありになれば、宇宙産業・科学技術基盤部会にそういった点をお伝えして、最後に収れんさせていただくことを、事務方としては想定しております。

○白坂委員　そうすると、民生のところが◎で、ほかに○がある場合には、我々のところで何かを決定する前に○のところに意見がないかを確認したほうがいいということでしょうか。

○頼宮参事官　もし、そういう意見があれば、それを事務方のほうでお伝えするとか、やり方はいろいろありますけれども、◎の部会に全部集めていくということです。集めた結果をもとに、◎の部会でまとめることになります。

○白坂委員　ちょっと気にしたのは順番といいますか、結構アイテムが多いと

いう話が先ほど出たので、これらを議論しているときに、他の部会で取りまとめるもので、民生部会に○がついているものについては、事務方も含めてスケジュールを気にしながら議論する必要があるのかと思います。

○頼宮参事官 我々のほうでもそこはうまくコーディネーションしたいと思っています。

○中須賀部会長 ありがとうございます。

○のところは、時間的には少し早目に意見を出して、◎のところに伝えておかないといけないということですね。ありがとうございます。

とすると、本部会の担当には○が幾つかあるので、メインの議論はしないけれども、意見があったら早目に出していただくということですね。

○頼宮参事官 あともう一つ、山川委員は宇宙産業・科学技術基盤部会の部会長でいらっしゃって、宇宙民生利用部会の中須賀部会長は宇宙安全保障部会の部会長でもあります。そういう形で委員も相互にクロスしていただいていますので、他の部会の視点も包含されるのではないかと我々事務方としては期待しております。

○柴崎委員 今、ちょうど資料5の話が出たので申し上げますと、資料5のNo48、49、50で考えられる国際協力というのは、衛星の相乗りに限らず、例えば宇宙を使った防災とか食料管理など、幅広いアプリケーションも対象になるのかなと思います。そうすると、宇宙産業・科学技術基盤部会だけではなく、この宇宙民生利用部会でもちゃんと議論したほうがいいのではないかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○中須賀部会長 おっしゃるとおり、民生と基盤の両方の視点があるので、お互いに連携しながら議論していくという感じでよろしいのではないのでしょうか。最終的には宇宙産業・科学技術基盤部会のほうで取りまとめていただくけれども、この宇宙民生利用部会でも国際的な連携、民生分野における連携を少し議論していくという形にさせていただいたらどうですかね。

○中村審議官 ちょっと補足させていただいていいですか。

各部会においてはそれぞれの目標が達成されているかどうかを議論していただくことが中心となります。その目標の趣旨は、民生分野については資料2-2の14ページの②に記載されておりますし、宇宙産業・科学技術の基盤については同じ資料の15ページの③に記載されております。

今、柴崎先生がおっしゃった話は、例えば、資料2-2の15ページの宇宙産業・科学技術の基盤のところにある「国際競争力ある宇宙産業を擁する・・・政府や大学等における研究開発成果の移転の在り方」だけではなく、14ページの民生分野のところにある「地球規模課題の解決と安全・安心で豊かな社会の実現」やG空間社会の実現、ビッグデータの活用といった観点を宇宙民生利用

部会で議論していただくことを意味するのではないかと思います。ただ、私もが考えたのは、全体として、③の宇宙産業・科学技術の基盤は、②の民生分野よりも幅広い観点があるだろうということで、最終的には③のほうでまとめていただくということです。

○中須賀部会長　ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

○目崎委員　放送衛星、通信衛星については、比較的記載が少ないような気がするのですが、これは、既にでき上がった市場、マーケット、サービスがあるからという理解でよろしいですか。

○中須賀部会長　放送衛星、通信衛星は大事な分野だと認識しております。

産業を振興していく観点からいうと、通信衛星・衛星放送の分野は、宇宙機器産業の大体8割ぐらいを占めているので、ここを日本として対応していかないと、宇宙の産業の活性化にはつながりません。ここは相当議論しなければいけないということで、今、総務省を中心に検討を始めております。その話もこの部会でよろしいのですかね。

○目崎委員　どちらかといえば、基盤として議論をするようなイメージを受けたのですが、そうではないですか。

○中須賀部会長　基盤でしたか。

○目崎委員　どちらかという宇宙民生利用部会のほうでは新しいアプリケーションをつくるとか、そういうイメージが強いと思うので、放送衛星、通信衛星を使った新しいアプリケーションをやるに当たって、我々のほうで議論をしたものを基盤の方々にお伝えをすることを考えておりました。

○中須賀部会長　そうですね。次の世代でどういうタイプの衛星を使った通信網のニーズがあるかというあたりはここで議論して、そこを開拓していくのであれば、何をやるかということについての議論もこちらでやっていくということではよろしいかと思います。

○目崎委員　ありがとうございます。

○中須賀部会長　それはぜひお願いいたします。大事な分野です。

ほか、いかがでしょうか。

資料5の1ページ目の情報収集衛星の光学、レーダーのところで民生が○になっています。これについて宇宙民生利用部会の中でどういうところを議論していくかということですが、災害への利用をどうしていきますかという話と、いわゆるデュアルユース的な、こちらでいろいろ出てきた技術、情報収集衛星の分野で出てきた技術をいかに民生に広げていくかという仕組みづくりも少し議論しなければいけないと思います。宇宙安全保障部会でもやるのだろうと思うのですが、この宇宙民生利用部会でも少し意見を上げていく必要があるのではないかと思います。そういう理解でよろしいでしょうか。

○中村審議官 事務局で統一した見解はないところですが、私のイメージでいえば、使いたいということでリクエストを出すのは宇宙民生利用部会だと思うのですが、宇宙安全保障部会ではそのリクエストに対して応えられる部分と応えられない部分があり、具体的なことを決めていくのは宇宙安全保障部会でやらざるを得ないと思いますので、お互い補いつつ、最終的には宇宙政策委員会で決めていただくことになると思います。

○中須賀部会長 宇宙民生利用部会としては、この技術は民生利用のほうにも転化してくれというリクエストをある種検討するということでしょうか。

○中村審議官 個別の技術についてこちらでどこまで分かるか、という点がありますが、このように使えるようにしたいという言い方はあると思います。

○中須賀部会長 わかりました。

○小宮宇宙戦略室長 もともと出口戦略を重視するということなので、今回の宇宙基本計画は3つの目的のうち2つまでは出口の話になっています。この部会では、災害防止等の民生という観点で、情報収集衛星及びそこから派生する技術をどこまで民生分野に活用できるのかというところを御議論いただきたいと思っています。

○中須賀部会長 わかりました。では、それを宇宙安全保障部会に提案するという形になるのでしょうか。

○小宮宇宙戦略室長 提案するのですけれども、必要に応じて内閣衛星情報センターにも来ていただいて説明をいただくことになると思います。

○中須賀部会長 その辺はぜひしっかりやっていきたいと思いますので、御意見をいただければ是非お願いします。

ほか、いかがでしょうか。

今、所掌の範囲はわかったのですけれども、今日の後半のほうで、具体的にどういう議論をしていくかということについて、工程表の改訂というところで議論が出てくると思いますので、ここで終わりたいと思います。

それでは、次の議題に移りたいと思います。次は、平成26年度の補正及び平成27年度の宇宙関係予算案が決まりましたので、それについての御報告を事務局よりお願いします。

<事務局より資料3に基づいて説明>

○中須賀部会長 それでは、今の事務局の御報告に対して、御質問、御意見はございますか。

予算を見るときに、補正予算を気にされるか、あるいは当初予算の増減を気にするのか、どちらでしょうか。

○頼宮参事官 これは個人的な意見ですが、当初予算のほうを割合気にいたします。

当初予算はいわゆる根雪のように次年度の要求のベースになります。シーリングのルールというのが毎年決まるのですけれども、ここ数年は前年度の当初予算を1割カットして、30%増しまで要求して良いことになっていまして、そのベースになる数値の中に補正予算は入りません。

○中須賀部会長 全体の宇宙関係予算に関して、他に特筆すべきものは何かございましたでしょうか。

○小宮宇宙戦略室長 今回の特徴の1つは、政策予算が当初ベースではかなり切られてマイナスになってしまっている分野がある中で、宇宙に関しては、当初予算比で1.7%増を確保しました。ドングリの背比べと言われたらそれまでですが、他が減っている中で、どうにか予算を確保したということであろうと思っています。

○中須賀部会長 ありがとうございます。

これは関係各省庁さん皆さんの頑張りのあったと思いますのでこの場でお礼を申し上げたいと思います。

それでは、ほかに何かございますでしょうか。

○目崎委員 1つ、理解をしたいのが、ここの中に載っているそれぞれの予算の項目というのは、先ほど御説明いただいた資料5の中に載っているということですよね。

○中須賀部会長 そうです。来年度の計画というベースで書かれているということですね。

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次の議題の「宇宙基本計画工程表の改訂の進め方について」に移りたいと思います。事務局のほうから説明をよろしくお願いいたします。

<事務局より資料4及び5に基づいて説明>

○中須賀部会長 ありがとうございます。

資料4の1ページ目の最後の成果目標を踏まえた評価から、次の2ページ目の頭に当たるあたりが本部会でいろいろ検討していく項目であるとお考えいただければと思います。

今、どこまでできているかということを御報告いただいて、それがアウトカムに向かっているかどうか、そうでなければ取組をどのように変更なり改善なりをしていくべきかということを色々と提案して、全体をうまくステアリングしていくのが我々宇宙民生利用部会の役割であるとお考えいただければと思い

ます。

スケジュールのイメージを書いてございますが、成果目標に関しては、宇宙政策委員会が中心になって検討しておりまして、ある程度案を決めていきます。したがって、この部会自体が成果目標をいろいろ議論するという事ではないのですが、決まった成果目標に対して、現状を見ながら色々と提案していくというのがこの部会の目的であるとお考えいただければと思います。

来年度は平成27年度ですけれども、ここで議論する概算要求は平成28年度の概算要求です。つまり、平成27年度がまだ動いていないときに平成28年度の概算要求に向けての議論をしていかなければいけないという、ちょっとタイムラグみたいなものがあるのですが、そこは宇宙の時定数が長いということを考えながら、少し先走った議論をしていく必要があります。

平成27年度の前半は、各部会での議論をもとに宇宙政策委員会で戦略的予算配分方針、平成28年度に向けて、各省庁でどういうところを重点にしないという予算配分方針を各省庁に提示するという流れになります。

後半では、今度はある程度平成27年度における活動が動いているので、その活動をさらに見ながら修正を加えて、年末の工程表の改訂につなげるという流れになっているということだと思います。そういうことを頭に入れながら、いろいろ御議論させていただきたいと思います。

あとは、項目が非常に多くあるので、これをどうやっていくのかということです。これを全部網羅的にやるのか、あるいはそれぞれの年度ごとに、今、重点的にやらなければいけない項目と、もう少し先でもいいという項目が出てくると思うので、その辺はうまくバランスを考えながらやっていく必要があるかと思っています。そうしないと議論が十分に深まらないので、そういった今、議論をしなければいけない項目を常に頭に入れながらやっていきたいと考えています。

皆さんのほうから御意見、御質問等いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

○白坂委員 成果目標は各年度のもののなのか、10年のものののでしょうか。また全部一律で10年なののでしょうか。例えば準天頂衛星の7機体制だと多分、4機、7機という切れ目があるので、10年だけでいいのか、あるいは切れ目があったほうがいいのか、ちょっとわからないと思ったのです。全部一律で10年ならばそれはそれで結構です。

○小宮宇宙戦略室長 工程表に書かれたものによってどういうアウトカムが出てくるかを記述する方向で、宇宙政策委員会の中で議論をしています。したがって、白坂委員がお考えのものよりもっと抽象的な成果目標が出てくることになります。

○白坂委員 基本的には10年後のアウトカムがでてくるということでしょうか。

○小宮宇宙戦略室長 工程表に書かれていることをやった場合に、最終的にこういうアウトカムが得られることを求めます、ということです。どちらかというと衛星がうまくいったか、というよりは、その衛星によって何が引き起こされたかというところに焦点を当てています。アウトカムを求める時のものの考え方のアングルみたいなものをそれぞれの工程表に関して作って、そのアングルに照らしてプロジェクトがまっとうな方向に進んでいるかをチェックしていくようなイメージです。

○中村審議官 補足よろしいですか。

基本的には、宇宙基本計画に書かれていることが実現した場合に社会がどんな姿になるのかということです。一方で、この宇宙基本計画には、例えば平成27年度中に検討して結果を出すということだけが書かれている項目があります。そういう項目については、平成27年度の検討結果によってまた改めて見直すものも出てくると思っています。したがって、進捗によって変わっていくものもあると御理解いただければと思います。

○山川委員 全く同じ理解です。10年後というより10年間を見据えて、途中で何か要求されるものがあれば、それも見ていくということで、柔軟にやっていくのではないかと想像しています。

○中須賀部会長 例えば産業基盤がこれぐらい拡大するとか、海外にこれぐらい売れるとかまでは書けないだろうと思っています。ただ、心としてはその辺のことも少し考えておく必要があるのかなと思っています。

大事なことは、アウトプットではなくてアウトカムである。これはすごく大事なことです。これまで衛星ができただけで終わりという御批判もいろんなところから受けているところもありますので、しっかりとそれぞれの政策目標ごとにアウトカムを明確にしていくという、このプロセス自体がある種大事であると考えているところです。

ほか、いかがでしょうか。

○目崎委員 アウトカムが大事だというのは賛成ですが、考えるほうは大変だなと思います。今のお話ですと、戦略的予算配分方針というものを決めて、それが翌年度の予算要求につながっていくということは、多分、3年先ぐらいを見た評価が基本になるような気がするのですが、これが10年先にこのようなアウトカムになりますよという話だけだと、本当に進んでいるのかどうかを評価しなさいと言われても、なかなか難しいのではないのかというのが正直な感想です。

例えば3年後には少なくともこのぐらいのことはやっていますというようなマイルストーンがないと難しいのではないのかなという気がします。このあた

りはいかがでございますか。

○中須賀部会長 ありがとうございます。おっしゃるとおりではないかと思えます。一番良いのは最初の全体の目標、成果目標をつくる段階で、それを実現するためには、どこまでできなければいけないかということもあわせて明確にしておく必要があるかと思いますが、そこまでできるでしょうか。

○小宮宇宙戦略室長 まず、分量が非常に多いことを考えると、宇宙政策委員会がそこまで踏み込んで個別のプロジェクトにお題を出すのは、正直無理だと思います。むしろ個々のプロジェクトにアングルを示して、それに向けてどのように進んでいるのかの立証責任、説明責任は個別の省庁に担っていただくスタイルでやるしかないかなと考えているところです。

○目崎委員 そうすると、これから先、色々ヒアリングをさせていただく中で、3年後にはどのぐらいのところまでいっているのかといった議論も、ヒアリングをベースにしてとりまとめていくということでしょうか。

○中須賀部会長 そうですね。アウトカムを実現するためには、おっしゃるようにこの段階ではここまでできていなければいけないと我々は考えており、それに対してそれぞれの省庁から、ここまでできていますよという報告をしていただくのだと思います。我々としては、この年にここまでできているというのは少し甘いのではないか、間に合わないのではないかと目標自体の評価、かつ、どこまで実現できているかの評価、これらの両方をあわせて評価していくということではないかと思うのです。

○柴崎委員 出てきた資料を見てから具体的に考えるのだらうと思っていました。

○中須賀部会長 とにかくたくさんあるので、このメンバーでどうやっていきましょうか。

○小宮宇宙戦略室長 実は、宇宙民生利用部会は単に個別のプロジェクトのローリングだけではなくて、もう少し重要なミッションをお願いしたいと思っています。

正直に申し上げて、日本は利用のところが諸外国に比べてすごく弱いのです。測位衛星にしろ、リモートセンシング衛星にしろ、それを使ってどういう産業をつくっていくのかということについて、この宇宙民生利用部会で御議論をいただきたいと思っています。どのように議論するか、まだ案がないのですが、個々のプロジェクトの進捗だけチェックしていても、最終的な目的に到達できません。どういう枠組みで何をやるべきかというのをまさに御議論いただいて、むしろ個々の省庁に、この部分について新しい施策をつくってほしいというツケ出しをしていくように持っていただければベストだと思っています。

個々の工程表で申し上げれば、抽象的な一本の矢印が引いてあるものをもっ

と具体的なプロジェクトとして因数分解できるようにするためには、個別の省庁それぞれの検討に加え、どういう宇宙利用産業づくりをするのかということ、この部会で少し御議論いただければありがたいと思っております。

また、宇宙産業・科学技術基盤部会に置かれている法制小委員会は、基本的に法律論を議論する場ではありますが、根っこのところの産業論がしっかりしていないと、よくわからない話になってしまいます。そういう意味で、法律との関係でも、リモートセンシングの関連産業というのはどうあるべきなのかとか、欧米はどうなっているのか等は、本部会でも少し議論の一部になるのではないかと考えております。

○中須賀部会長 とても大事なところですね。そこがないと多分、形式だけになってしまうので、その魂を入れるところはしっかりやりたいところであります。

例えば柴崎委員だとG空間との連携とかで準天頂衛星の利用をどう拡大していくかとか、リモートセンシングとの組み合わせとかいろいろあると思います。何かございますか。

○柴崎委員 資料4の工程表は、上がってきた案を評価して返すというルーチンワークが書いてあります。これでは、そもそも上がってこないものは評価しようがない枠組みとなっています。そこで、追加としてこういうのを考える必要があるというのはどのタイミングでどう出すといいのか、ということがポイントかと思えます。もっと言うと、追加の話はある程度絶えず出てくるものだと思うのですが、どのように工程表にはめればいいのでしょうか。もちろん、検討するのはやぶさかではないというか、すごく重要な話だと思います。この部会で単にヒアリングだけして、S、A、B、Cで評価するみたいな話だとすると、それはあまり意味がないのかなと思います。

○頓宮参事官 資料4の2ページ目の上から3つ目のところに「新たなプロジェクト・施策への取組み等が必要か」と書いていますけれども、これは今、柴崎委員がおっしゃったことを念頭に置いています。

要するにルーチンで既存の施策を評価するだけだと限界があり、それでは足りません。したがって、こういうことをやる必要があるのではないかと、もっとこういう可能性があるのではないかとということも、評価に当たっての視点として明示的に書かせていただいています。

これは部会の中での御議論だとは思いますが、関係各省からのヒアリングもしていただいた上で、むしろ委員のほうから積極的にこうすべきではないかという御意見があるのであれば、発信していただくのかと思います。

年度の前半、予算要求の前にそういう問題意識を関係府省に伝えることによって、新たな予算要求が行われる可能性が出てくるわけです。次に、それを概

算要求が終わった後にフォローアップしていくという、毎年の流れを回していく必要があるのかと思っています。

無論、戦略的予算配分方針に書いただけだと概算要求に至らない部分もあるかもしれませんので、そういった部分については個別に御相談させていただくということかと思っています。

○中須賀部会長 部会で各省庁のヒアリングをした時に、では、こうしたほうがいいのか、こういう施策を入れなさいというのは、その場だけではなかなか出てこないだろうから、何かもっとブレストする場とか深く議論する場が要るのだと思うのです。本部会の中だけではできないので、例えばそれぞれの委員の皆さんに、各分野の主担当になっていただいて、この部会の外でもそういう議論を詰めていただくとか、あるいは勉強会みたいな形でやっていただくということはどうでしょうか。

この部会では、そこで議論した内容の結果を御報告いただいた上で、みんなで議論するというのが本当は良いのです。委員会をむやみにつくるというのは手間がふえるばかりで余り望ましくはないので、それをシンプルな形でできるようなやり方はないのだろうかという気がしています。

○柴崎委員 そういうまとめたものがいつのタイミングで必要になるのでしょうか。それによってまた使われ方というか、インパクトが変わってくるかと思っていますので。

○中須賀部会長 本当を言うと、今です。

○小宮宇宙戦略室長 ちょっと事務局で考えさせてください。プロジェクトで全部切っていくやり方もあるし、他方で、利用の仕方のほうで切るやり方もあります。例えば今回、民生利用と言っても本当の商業ベースで回るものと、災害対策のように、いわばパブリックな事業として宇宙を使っていくものもあって、これは当事者からすると全く違う世界です。

つまり、同じ準天頂衛星やリモートセンシング衛星を使うにしても、災害防止という観点でやる場合には、むしろそれをやることと、既存の災害対策との比較において宇宙を選択したほうが、安くなるのか効果的なのかという議論をしなくてははいけないでしょう。

他方、経済的な観点で言えば、例えば準天頂衛星によって自動車の自動走行やロボット産業、ロボット建設やロボット農業というのが発展して、結果的に日本の産業競争力がどのくらい増大するのかとか、リモートセンシング衛星ですと、IT産業と結びついて、日本版の地球のデータを総合したクラウドサービスができるのかといった議論をする必要があります。

ただ、今、申し上げたようなことを議論しようとする、実は相当幅広いところから帰納的にバックキャストしていくということが必要になるので、作業

的にかなり大変になります。

そういう意味で、どのように議論していくかは、少しまた我々のほうでも検討した上で、部会長にも御相談をしたいと思います。

○中須賀部会長 全部を内閣府で所掌する必要はないのではないかと思います。

○小宮宇宙戦略室長 それはおっしゃるとおりです。

○中須賀部会長 各プロジェクトの主担当の省庁に、そういうタイプの委員会ないしは検討会をつくってもらって、そこにここの部会の委員が1人ずつ行って、その人がある種リエゾンの働きをしていただくというのはどうでしょうか。今、総務省で通信・放送衛星の検討会が動いています。これには私と山川委員が参加しています。部品戦略等は経済産業省のほうで検討が進められていて、私が参加しています。このようなことが、各省庁が主担当のプロジェクトについて行われ、そこで深掘りをするような議論をしていただければ良いのではないかと。内閣府に全部集中すると、相当きついと思います。

○小宮宇宙戦略室長 厳しいです。

○中須賀部会長 ですから、あくまでここはその結果を持ち寄った全体的な横通しの議論という役割分担がいいのではないかと私は思うのです。

ただ、大事な分野については深掘りの検討委員会、利用活性化の検討委員会があるという状態をつくり出すことが大事なと考えているところです。また相談しましょう。

○小宮宇宙戦略室長 一度事務局で引き取ります。

○中須賀部会長 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。大体よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、本日予定しておりました議事は終了いたしました。

最後に、事務的な事項についても、事務局から御説明をお願いいたします。

○頓宮参事官 次回の開催日程はまた事務的に調整させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○中須賀部会長 それでは、閉会にしたいと思います。どうもありがとうございました。

以 上